

# 「VERITAS VISION 2004 JAPAN」に見る ベリタスソフトウェアの ユーティリティ コンピューティング戦略

ベリタスソフトウェアは10月6日、恒例となったストレージテクノロジーカンファレンス「VERITAS VISION 2004 JAPAN」を開催した。4度目となる今回のカンファレンスには、過去最大規模の1,713名の来場者が集まった。「UTILITY. NOW.」をテーマにした今回のカンファレンスに見る、ベリタスのユーティリティ コンピューティング戦略と実現のための技術・製品を紹介するとともに、カンファレンス終了後の木村裕之社長に、日本におけるビジネスの状況を聞いた。

## 既存ITシステムのユーティリティ化で、 IT部門をバリューセンターへと進化させる

### ヘテロ環境をサポートしたソフトによるITシステムのユーティリティ化

ベリタスソフトウェア（以下、ベリタス）は10月6日、ストレージテクノロジーカンファレンス「VERITAS VISION 2004 JAPAN」を開催した。4回目となる今年の年次カンファレンスでは、「UTILITY. NOW.」をテーマに、ヘテロジニアス環境をサポートした、ストレージをコアにした同社独自のソフトウェアによるユーティリティ コンピューティングの優位性とユーティリティ化までのステップを示すとともに、それを実現するためのITユーティリティ コンポーネントであるベリタス製品群が紹介された。

電気やガス、水道のごとく、企業内のITインフラをサービスとして提供できるユーティリティ環境を目指した「ユーティリティ コンピューティング戦略」を発表して1年余。基調講演に登場した米国ベリタス本社のゲイリー・ブルームCEOは、「ハードを持たないソフト専門ベンダーだからこそ、いまあるITイン

フラのユーティリティ化をすぐ実現できる。私たちは、ユーティリティ コンピューティングを実現するヘテロジニアスなソフトウェアのリーディングプロバイダーを目指している」と強調した。

同社は、ユーティリティ戦略を発表以来、一貫してハードやOSにとられないヘテロジニアス環境に対応した、ユーティリティ コンピューティングの実現を目指してきた。この点が、自社製品でシステムのユーティリティ化を段階的に推し進めていく他のベンダー各社の戦略と大きく異なっている。ベリタスのヘテロジニアスなソフトウェアは、新たなハードやOS、テクノロジー、さらにはブレードコンピューティングなどの新たなパラダイムへの柔軟な移行を可能にするというメリットを持つ。これらを実現するため、研究開発投資も積極的に実施してきており、「2004年度の研究開発投

資額は3億3,700万ドルにのぼる予定で、4年前の約倍になっている」（ゲイリー・ブルームCEO）。

同社はこの1年間、ITユーティリティ コンポーネントとしてのビルディングブロックの強化を図ってきている。あらゆる製品のアップグレードを行うと同時に、新しいソリューションの開拓にも注力している。その一例としてブルームCEOは、電子メールアーカイブソフトの世界的リーダー、英KVault Software（KVS）を買収したことも紹介。Eメールとデータの保存、管理、バックアップ、アーカイブを行い、管理コストを抑えながら迅速なコンプライアンス（法令順守）が



「ソフト専門ベンダーだからこそ、ヘテロジニアス環境のユーティリティ コンピューティングが実現できる」と訴える米国ベリタスソフトウェアのゲイリー・ブルームCEO

可能になるとしている。

### ITのユーティリティ化に向けた 日本市場へのコミットメント

一方、「ユーティリティ コンピューティングを支える国内戦略とパートナーシップ」と題する基調講演で、ベリタスソフトウェアの木村裕之社長は、日本市場におけるITシステムのユーティリティ化を実現する具体的な施策として、製品ソリューションの強化、コンサルティングの強化、継続的なパートナーシップの3つを宣言。具体的な取組みとして、製品ソリューションの強化については、2005年に「VERITAS ジャパンエンジニアリングセンター」(JEC)を開設し、日本で動作検証などを行いユーザーへのサービス拡充を図るほか、日本語による詳細な技術文書なども提供していくと発表。コンサ

ルティングについては、日本テレコムネットワークサービスとのDR(ディザスタリカバリ)サービスでの協業を発表した他、米国などですでに実施しているアプリケーションのパフォーマンスに関するコンサルティングについても、今後行う予定であるとしている。また、パートナーシップ戦略については、日本ネットワーク・アライアンスとのマーケティング、販売、サポート面における協業、富士通とのミッションクリティカルなLinuxシステム実現に向けた協業についても発表した。

### ユーティリティコンピューティング 実現の5つのステップ

ベリタスは、ユーティリティ環境の実現により、ITがサービスとして利用されるようになれば、運用管理コストが削減され、IT部門はコ

ストセンターからバリューセンターへと変革することができると主張。そのためのシナリオとして、5つのステップをあげている。

まず、複雑化したIT環境を正確に把握、仮想化技術でリソースを占有利用から共有利用へとヘテロジニアスなインフラへと転換し、管理手法を標準化する。そして、標準化された管理手法をポリシーによって自動化する。その後、ITインフラをサービスとして展開する。この5つのステップをストレージ/サーバー/アプリケーションにカテゴライズし、段階的にビルディングブロックを積み重ねる手法で、アベイラビリティが高く、パフォーマンスに優れた、自動化されたコンポーネントによってユーティリティ化を推し進めるというシナリオだ。

## ユーティリティ コンピューティングを実現する 技術と製品ロードマップ

### ITユーティリティコンポーネントの 統合とベリタス製品

「VERITAS VISION 2004 JAPAN」では、合計29のセッションが開催された。その中の「検証、ユーティリティ コンピューティングの実現」と題するテクニカルワークショップでは、ユーティリティ コンピューティング実現への技術解説とロードマップが紹介された。ベリタスでは、ユーティリティ コンピューティングは、ストレージ、サーバー、アプ

リケーションへと段階的に実現していくことが得策であるとしており、前述の5つのステップの各段階で、アベイラビリティ、パフォーマンス、自動化の3つの機能に対応した製品群をビルディングブロックの形で提供している。

ベリタスは、ユーティリティ コンピューティングプラットフォームというフレームワークで、ITユーティリティ コンポーネントを統合し、ビルディングブロックとして機能する製品群を提供している(図1)。その

前提になるのが、リソースの利用率向上、ビジネスと緊密に連携し、プライオリティ付けられたアプリケーションの稼動、サービスレベルに基づいたリソース配分の管理であり、これによって投資対効果を高くするというベリタスの考えだ。

以下、ユーティリティ コンピューティングを実現する重要な要素である、ストレージ ユーティリティ化のためのストレージ管理技術と関連製品及びサーバーのユーティリティ化に欠かせないサーバー クラスタリング技術と関連製品の概要を紹介する。

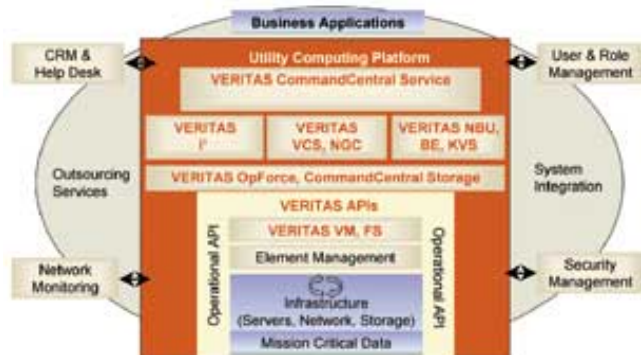


図1 ITユーティリティ コンポーネントの統合とベリタス製品群

## ストレージ ユーティリティ

ベリタスは、ユーティリティ コンピューティング実現は、まずストレージのユーティリティ化を図ることから始めることを推奨。ストレージユーティリティのコアコンポーネントを、ユビキタス ネットワーク上でのストレージ層（ハードウェア）仮想化と自動化（ソフトウェア）、サービスレベル（プロセス）に階層化している。ストレージ層は、サービスレベルやコストに応じて、クラス分けされたストレージインフラストラクチャで、戦略的な計画に基づいて実現することが重要と指摘している。ベリタスは、革新的な仮想化技術である QoS（Quality of Storage Service）により、ファイルやディレクトリをストレージ層間で移動させることを可能にしている。

VERITAS Storage Foundation 4.0 には、QoS 機能が実装されているほか、スイッチベースのネットワークストレージ仮想化技術に基づいて、容易なストレージ設定と管理の一貫性を実現するインテリジェントスト

レージプロビジョニング機能も実装されている。

また、サービスレベルはビジネス上の要件（性能要件、アップタイム要件、構成変更要件、災害復旧要件、RPO; Recovery Point Objective、

RTO; Recovery Time Objective）を、コストを考慮しながら技術的な実現方法に当てはめて定義することが重要で、アプリケーションやビジネス目標に合致するために十分な抽象化が必要であるという。これを実現する製品が VERITAS Command Central Storage である。本製品は、サービスレベルの自動管理とレポート機能を提供するもので、カスタマイズ可能なポリシーベースの管理により、通知やリカバリ、その他ユーザーが定義できるアクションの自動化が可能だ。

## サーバー ユーティリティ

最近、コモディティ ハードウェアとしてのブレードサーバーを導入してサーバープールを構築する企業が多くなっている。サーバー ユーティリティを実現するためには、サーバー資源の効率的な活用とサーバープロビジョニングの容易化に加え、多くのブレードサーバーが稼動するサーバープールでの次世代クラスタリング技術が必要であると指摘している。

サーバーの管理やプロビジョニ

ングに関する課題解決に向けたソリューションが OpForce である。これにより、サーバーインフラの構築、運用および最適化の各プロセスを簡素化できると同時に、アプリケーションパッケージ、OS パッチ、アップデートのソフトウェアによる展開や管理が、簡単かつシームレスに実行することが可能だ。

また、ベリタスでは、フェイルオーバーを実現する従来のクラスタリングのフレームワークとは異なり、キャパシティ、負荷、優先度をアプリケーションとマシンごとに定義し、マシン特性やアプリケーション稼動要件をクラスタ内で共有可能にする次世代クラスタリング技術に取り組んでいる。これが VERITAS Cluster Server の次期バージョンである NGC だ。NGC では、アドバンストワークロード マネジメント、ネットワーク負荷分散機能の統合、ホットアプリケーション マイグレーション、アドバンスト アプリケーション パーチャライゼーション、マルチプロセス スナップショット / リストア等の機能を実装する予定という。

最後に、アプリケーション パフォーマンス管理ソリューションである VERITAS i<sup>3</sup> と、OpForce、NGC の 3 つのコンポーネントの連携処理と、それに対して管理者にとるべきアクションの選択肢を提示し、選択されたアクションに従い 3 つのコンポーネントが強調して処理するという、自動化コンソールの Command Central Service を組み合わせたシナリオの例が紹介された。

## 【インタビュー】

### 企業経営に付加価値をもたらすITの ユーティリティ化で、真の企業ブランド確立を目指す

#### 積極的な需要に支えられ 米国本社以上の好業績を達成

1,700名を超える来場者を集めた「VERITAS VISION 2004 JAPAN」のご感想からお聞かせください。

**木村** 反響の大きさ、充分な手応えを実感しています。昨年までは、ベリタスのストーリー、戦略を聴きに來られた方が多かったようですが、今年は質量ともに大きく変わってきたITの環境をいかにマネージしていくかという課題に直面されており、皆さんこの問題解決の糸口を真剣に求められていると思いました。

その意味では、貴社に対する期待も大きいと思いますが、ビジネスの状況はいかがですか。

**木村** データ管理の分野は、非常にホットなマーケットです。企業のITシステムは、マルチベンダー、マルチプラットフォームのヘテロジニアスな環境になってきており、このヘテロジニアスなIT環境をいかに管理するかが経営戦略上、極めて重要な課題となっています。このような市場のニーズと、ベリタスの提供するソリューションがベストマッチしたこともあり、ビジネスは極めて好調です。2004年度第3四半期の米国ベリタス本社の売上高は前年比11%増で、利益も41%伸びていますが、日本はそれをはるかに上回る伸びを示しています。マルチな環境で、ストレージの仮想化だけでなくサーバー、

アプリケーションまで含め統合して管理できるというベリタスのソリューションが、日本市場においても浸透し始めた結果だと捉えています。

#### 経営戦略に直結するITのユーティリティ化で、真の企業ブランド確立を目指す

貴社の提唱するユーティリティコンピューティングが、ユーザーにもたらすメリットは.....。

**木村** いつでも、どこでも、必要なだけ、企業内IT資産を活用できる環境を実現しようというユーティリティコンピューティングは、企業経営に直結したコンセプトに基づくビジョンです。ヘテロジニアスな環境でのITシステムのユーティリティ化によって、個別最適ではなく全体最適を図り、企業経営に付加価値をもたらすことが目的です。ベリタスは、プラットフォームをヘテロジニアス化すると同時に、ソリューションやサービス拡大を積極的に行っています。例えば、情報漏洩問題や、来年から完全施行される個人情報保護法への対応など、データに関するコンプライアンスの意識が非常に高まっていますが、私どもでは、ILM（インフォメーション・ライフサイクル・マネジメント）の一環としてデータをきちんと管理するソリューションや、エンド・ツー・エンドのパフォーマンスに基づいたシステムの運用管理を行うためのアプリケーションパフォーマンス管理ソリューシ



ベリタスソフトウェア㈱  
代表取締役社長 木村 裕之氏

ョン（APM）を提供していくという観点で取り組んでいます。DRコンサルティングサービスの提供や、先頃買収したKVSの優れたアーカイビングソリューションも、ベリタス製品と組み合わせ提供していきます。

日本市場での今後のビジネス展開のポイントをお聞かせください。

**木村** 来年度以降は、攻めの営業体制に加えてJECの立ち上げ等により、より積極的な活動をしっかりと支えるための技術基盤を再構築してまいります。また、営業、技術、コンサルティングを強化・集約し、より力強い統合ソリューションプロバイダーとして日本市場でITのユーティリティ化を積極的に促進し、お客さまに最高のサービスを提供することで真の企業ブランドの確立を目指します。オープン化についても先進的であるNTTグループは、私どもにとって重要なお客さまです。ヘテロジニアスなIT環境を管理するスタンダード化したプロダクトの提供ということで、今後もお役に立てるものと考えています。